

[取組みの方向性4] 世界とつながる新たな熊本の創造 ～世界に挑み、世界を拓く～

[施策13] 世界と熊本をつなぐヒト・モノの流れの創出

(1)現状と課題		(2)概要		(3)施策体系		(4)県民アンケート結果													
<p>人口減少が進み、国内・県内経済の規模縮小が懸念される中、成長著しいアジアをはじめとする世界に目を向けた動きが進んでいます。これまで、国際航空路線の拡充や「くまモン営業部長」を活用したプロモーション活動等により、アジアとのつながりの強化や県産品輸出の拡大に取り組んできました。熊本地震に対する応援の機運の高まりや、新たなMOUの締結、国際スポーツ大会の開催等を契機に、これらの取組みを更に強力に推進し、「KUMAMOTOブランド」として世界に展開する必要があります。</p> <p>ラグビーワールドカップ2019が、本県も含め国内12都市で開催されます。また、ハンドボール世界選手権大会は、1997年の男子大会に続き、2019年に女子大会が本県で開催されます。これらの大会を着実に成功させるとともに、大会開催のレガシーを後世に残していく必要があります。</p> <p>グローバル化が加速する中、英語等の語学力やコミュニケーション能力、異文化理解の精神等を有する人材が求められています。</p>		<p>HACCPの取組みなどによる農林水産物や加工品などの県産品の競争力向上、販路開拓・拡大などに取り組み、「KUMAMOTOブランド」を世界に展開します。</p>		<p>施策13-1</p> <p>「KUMAMOTOブランド」の世界展開 【担当部局：健康福祉部・商工観光労働部・農林水産部・教育庁】</p>		<p>【満足度】</p> <p>【今後の方向性】</p>													
★重要業績評価指標(KPI)		策定時	H28	H29	H30	目標値													
施策13-1	i 海外(国別)に輸出及び進出を行った県内企業数	495 (H26)	573 <76.4%>			750 [社(単年)]	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H28</th> <th>事業数</th> <th>決算額</th> <th>H29</th> <th>事業数</th> <th>予算額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>14</td> <td>455,862千円</td> <td></td> <td>18</td> <td>2,779,036千円</td> </tr> </tbody> </table>	H28	事業数	決算額	H29	事業数	予算額		14	455,862千円		18	2,779,036千円
	H28	事業数	決算額	H29	事業数	予算額													
	14	455,862千円		18	2,779,036千円														
<p>分析</p> <p>TPP参加を契機とした海外市場への関心の高まりに加え、海外でのくまモン人気や熊本地震からの復興の機運を捉えた海外プロモーション等により、海外展開する県内企業が増加した。</p>																			
施策13-2	ii HACCP導入施設数	27 (H27)	40 <40.0%>			100 [施設(累計)]	<p>【満足度】</p> <p>【今後の方向性】</p>												
	<p>分析</p> <p>研修会の開催や対象施設立入時の啓発等により、導入施設の増につながった。</p>																		
施策13-3	i 海外高校への留学者数	12 (H27)	13 <65.0%>			20 [人(単年)]	<p>【満足度】</p> <p>【今後の方向性】</p>												
	<p>分析</p> <p>高校生留学支援等の事業での留学支援を行った結果、留学者は増加した。</p>																		
施策13-4	ii 海外大学への進学者数	18 (H27)	12 <40.0%>			30 [人(単年)]	<p>【満足度】</p> <p>【今後の方向性】</p>												
	<p>分析</p> <p>海外での大学学費の値上げや海外の政情不安等の影響により、進学者は減少した。</p>																		
施策13-5	iii 官民連携による海外研修・留学者数	47 (H27)	43 <86.0%>			50 [人(単年)]	<p>【満足度】</p> <p>【今後の方向性】</p>												
	<p>分析</p> <p>地震等の影響により、申請者が伸びず、採用基準を満たす者が減少したことから、海外研修・留学者数は減少した。</p>																		
施策13-6	iv 留学生(高等教育機関)の受入数	735 (H27)	685 <68.5%>			1,000 [人(単年)]	<p>【満足度】</p> <p>【今後の方向性】</p>												
	<p>分析</p> <p>国際的な政治情勢の悪化の影響等によりアジアからの留学生が減少したことから、留学生(高等教育機関)の受入数は減少した。</p>																		
施策13-7	v 2020年東京オリンピック強化指定選手数	45 (H27)	47 <117.5%>			20人以上/年(H31) 40人程度/年(~H28) [人(単年)]	<p>【満足度】</p> <p>【今後の方向性】</p>												
	<p>分析</p> <p>競技団体等との連携により指定選手数が目標を上回るなど、世界で活躍が期待できる選手の育成が進んだ。</p>																		
施策13-8	vi 2020年東京パラリンピック強化指定選手数	20 (H27)	16 <100%>			8人以上/年(H31) 16人程度/年(~H28) [人(単年)]	<p>【満足度】</p> <p>【今後の方向性】</p>												
	<p>分析</p> <p>競技団体等との連携により指定選手数が目標どおりとなるなど、世界で活躍が期待できる選手の育成が進んだ。</p>																		

【施策13】 世界と熊本をつなぐヒト・モノの流れの創出

No.	(5)平成28年度の主な成果	(6)問題点(隘路)・課題	(7)当該年度を含む今後の方向性
施策13 ①	<ul style="list-style-type: none"> くまモンを活用し、熊本地震における支援への感謝と復興に取り組む熊本の現状を発信するとともに、県産品の販路拡大及び観光PRのため、フランス「ジャパン・エキスポ」をはじめ、中国、香港、台湾、ASEAN等においてプロモーションを実施 県産品の海外競争力強化を図るため、HACCP等の食品の安全安心な衛生・品質管理手法を普及するとともに、関係機関と連携して海外市場での販売戦略方針の検討に必要なテストマーケティング等を実施 2019女子ハンドボール世界選手権大会の会場・期間が決定し、ラグビーワールドカップ2019の会場となる施設の整備に着手するとともに、両競技のプロモーション活動や普及啓発を実施 県内の行政、企業、各種団体等からなる熊本国際スポーツ大会実行委員会を設立。国際スポーツ大会開催の成果をレガシーとして次世代に引き継ぐため、レガシープログラムを策定 	<ul style="list-style-type: none"> 県産品がイベント等の期間後も恒常的に取引されるよう取り組むとともに、海外プロモーション等でより活用効果が高まるようくまモンの更なるブランド価値向上が必要 海外輸出の増加に向けて県内事業者の総合力を強化するため、国際標準の衛生・品質管理の導入を推進するとともに、多くの商品が集まる海外市場において、消費者に選ばれるような商品の展開が必要 大会の認知度や大会への関心を高めるため、両競技を県内に普及させ、県全体を盛り上げる取組みが必要 県内の各地域・分野へ大会開催等の効果が波及するよう、県内全域でレガシープログラムによる活動の展開が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 県産品の継続的な取引が見込める現地企業との関係の構築・強化や、海外においてくまモンを活用するパートナーの確保により、「KUMAMOTOブランド」の世界展開を推進 国際標準の衛生・品質管理手法の普及に向け、関係団体等と連携を深めるとともに、技術的支援を強化。さらに、海外バイヤー等と連携し、商品力強化のため商品ブラッシュアップを実施 テストマッチ開催や受入体制整備など大会準備を着実に進めるとともに、児童等への両競技の普及やプロモーション活動等により、大会の認知度や大会への関心を高め大会を成功に導き、併せて熊本の復興の姿や感謝の心を世界に発信 レガシープログラムを推進し、大会を開催する施設、スポーツに親しむ県民の増加、世界各国との交流などがレガシーとして次世代に残るよう、施設整備、国際試合等の開催、選手との交流機会創出、本県の魅力の発信や来訪者の受入環境整備を実施
	施策13 ②	<ul style="list-style-type: none"> 各種研修等の実施により、英語教員の英検準1級以上相当の資格取得率は、中学校では31.0%(H27年度28.4%)、県立高校では84.5%(H27年度73.2%)に向上 海外チャレンジ塾で学んだ高校生がマサチューセッツ工科大学に進学するなど生徒の海外大学への進学や留学に対する意識の醸成を図った。世界チャレンジ支援基金を活用し、高校生、大学生、若手芸術家等43名の海外チャレンジを支援 留学生の相談に応じるワンストップ窓口やSNS等を活用した留学生ネットワークなど大学コンソーシアム熊本が行う留学生誘致に資する取組みを支援。また、外国人農業実習生のスキルアップのために農業アカデミーによる研修を開始 留学生の県内定着を図るため、九州内の留学生と企業をつなぐマッチングサイトを九州各県等と連携してH29年1月に開設するとともに、県内企業に対し、留学生採用の成功事例やマッチングサイトの活用事例等を紹介するセミナーを開催 H32年の東京オリンピック・パラリンピック等に出場可能性のある選手を強化指定選手として指定し、強化練習等を実施。強化指定選手の中から、リオパラリンピックのウィルチェアラグビー日本代表選手や、フェンシング女子アジアジュニア選手権の優勝選手を輩出 	<ul style="list-style-type: none"> “英語教育日本一”を達成するため、英語教員の更なるスキルアップを図るとともに、生徒の英語力向上に向けた取組みが必要 海外留学・進学を総合的に支援する体制の更なる充実や学校現場の海外進学ノウハウの向上を図るとともに、海外にチャレンジする若者への支援資金の確保が必要 H28年は県内の留学生の数が減少したため、留学生に選ばれる環境となるよう取組みを強化するとともに、外国人農業実習生等のニーズに沿った研修のあり方の整理が必要 留学生・企業双方が求人・求職の情報を十分に得られておらず、また双方の習慣や文化への理解不足が留学生の県内定着を阻害 H32年の東京オリンピック・パラリンピック等に、より多くの本県出身の出場者を輩出するため、計画的な選手の育成・強化が必要